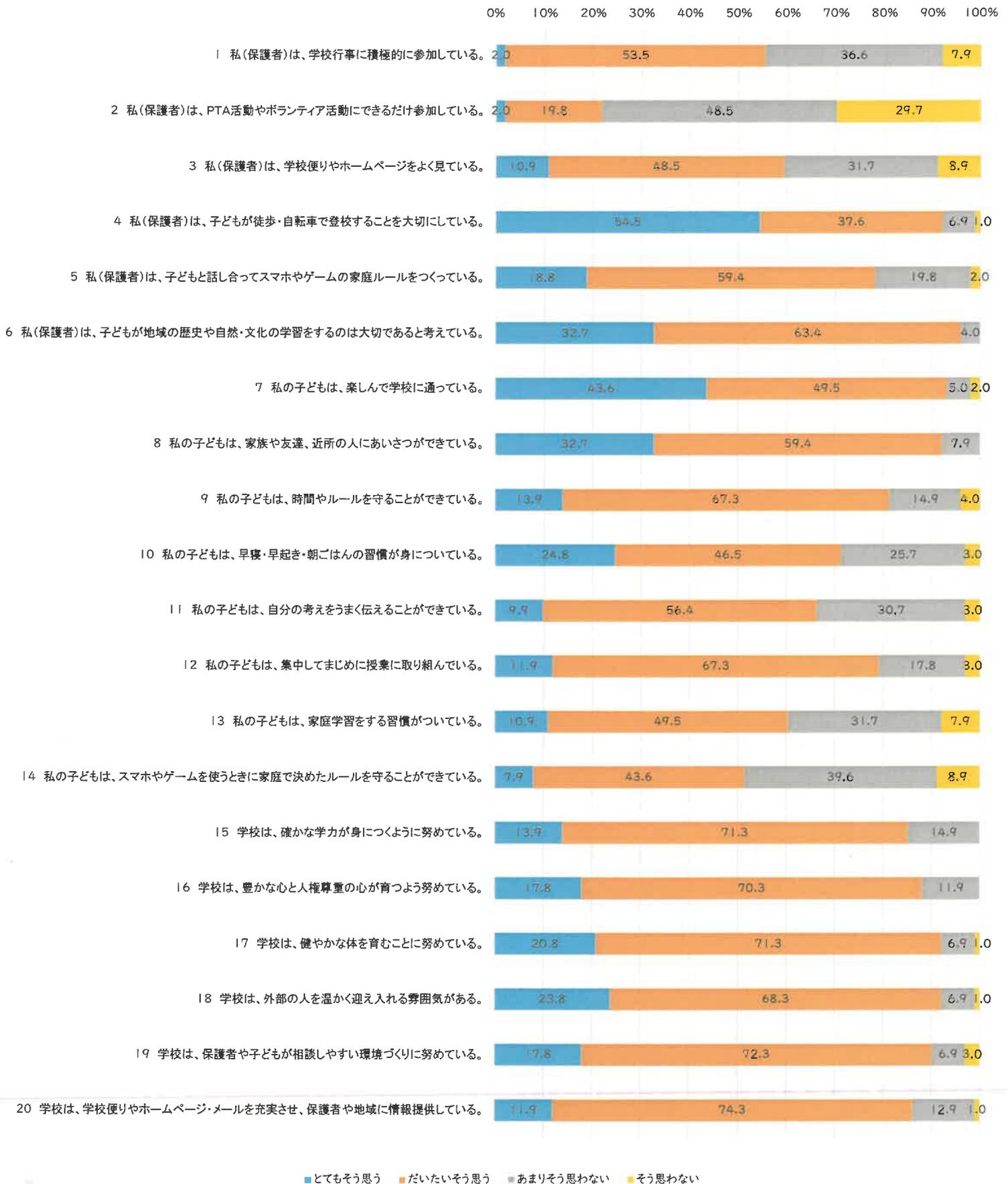


令和7年度 市立川島中学校 学校評価アンケート(保護者)



令和7年度 市立川島中学校 学校評価アンケート分析・考察(保護者)

1 はじめに

学校評価は、教育活動の「振り返り」のためのツールではなく、保護者アンケートによって可視化させたデータは、学校経営における課題を客観的に把握し、次年度の教育課程や重点目標を最適化するための重要なエビデンスとなります。

市立川島中学校がめざす「みんなでつくる 人を大切にする川島中学校」の実現に向けた取り組みをさらに推進していきます。

2 アンケート結果の分析と考察

※肯定群「とてもそう思う」「だいたいそう思う」の割合で分析・考察

2.1 本校の強み

○「情報公開」の強化による信頼の醸成

情報提供(項目20)への評価が86.1%(昨年度から2.2%増加)と伸長しており、学校の透明性を高める努力が、「楽しんで登校している(項目7:93.1%)」という生徒が前向きに取り組める要因となっている。学校の可視化が保護者の安心感を支えていると思われます。

○安全・健康指導の徹底

「徒歩・自転車登校の重視(項目4)」が92.1%(昨年度から17.4%増加)の伸びを見せている。交通安全指導の実効性が家庭に浸透しており、身体的安全を重視する学校姿勢が高く評価されています。

○地域連携を基盤とした教育価値の共有

「地域学習の重要性(項目6)」は96.1%と高い。地域資源を活用した本校ならではの教育が、保護者から支持を得ており、学校のアイデンティティとして定着しています。これらの強みは、本校が実践する「安心・安全な教育環境」に対する揺るぎないものであり、次年度も維持・強化すべき基盤であると思います。

2.2 本校の課題

○「ルール形骸化」のパラドックス

本校における最大の課題は、「スマホ・ゲームルールの策定(項目5:78.2%)」、「遵守(項目14:51.5%)」の間に存在する「26.7%ポイントの乖離」である。家庭内でルールを設けても、その約3割が機能していない事実は、デジタル機器の利用を巡る課題が家庭内で深まりつつあることを示しているのではないかと考えられます。

○学びの習慣の見直し

「授業への集中力(項目12:79.2%)」および「家庭学習の習慣(項目13:60.4%)」が昨年度から約9%低下しています。学習の基盤となるこの2つの項目が低下していることは、学校としても重く受け止めています。今後の学力向上を考える上でも、生徒たちが自信をもって学習に取り組めるよう生活習慣や学習環境について整えていく必要があります。

○学校運営の課題と、PTA参加者の減少

PTA参加率が(項目1:55.5%、項目2:21.8%)昨年度から約10%低下している。現代のライフスタイル変化と学校行事へ参加はしたいがタイミングが合わないということが考えられる。学校と家庭の組織的な連携体制の再構築が不可欠であると考えています。

3 課題解決に向けたアプローチ

○学力向上

タブレット端末を活用した「5分間ドリル」や「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図ります。また、「読書」の時間を短時間でも設定し、活字に触れる機会を増やします。

学校での「集中して学ぶ時間」と、家庭での「自分と向き合う学習時間」が車の両輪のように連動して確かな学力へとつながっていきます。生徒たちが「わかった」「できた」という喜びを感じながら成長していけるよう、学校と家庭が密に連携し、粘り強くサポートしていければと考えています。

○情報活用

生徒会が主体となり、生徒目線でのスマホ利用の課題や理想的なルールについて全校で考える機会を構築します。また、専門家を招き、スマホルールの作り方や健康への影響について保護者、生徒、教員が学び合いをとおして、学校での学びを家庭に持ち帰り、対話するきっかけにしたいと考えています。「学校・生徒・家庭」の三者が共通認識を持つことで、生徒が情報の海で自分を守り、かつ最大限に活用できる力を身につけられるよう取り組んでいきます。

○PTA活動の充実

活動内容や目的をわかりやすくお知らせするとともに、短時間での参加や行事に応じた関わり方など、多様な参加のかたちを大切にします。また、活動の様子や成果についても、ホームページや学年だよりなどを通して積極的にお伝えしていきます。さらに、行事の開催時期の見直しも含め、「できるときに、できることを」進めていきます。学校とPTAが連携し、生徒たちのよりよい学習環境づくり、互いに取り組んでいきたいと思います。